



扁桃肥大について (発熱や痛みがないのに扁桃が大きい)

千葉県こども病院耳鼻咽喉科 外池 百合恵 医師

こども急病電話相談

受診するべきかどうかわかったら

#8000

毎日夜7:00~翌朝6:00

※相談は無料ですが、通話料はご負担いただきます。

ダイヤル回線・IP電話・光電話・銚子市からは
☎043 (242) 9939

Q1 健診で扁桃肥大と言われましたが、 どのような状態ですか？

扁桃は咽頭にあるリンパ組織で、一般的には扁桃腺と呼ばれています。口を開けると左右に見える口蓋扁桃、鼻の奥にあるアデノイド(咽頭扁桃)などがあります。扁桃は乳幼児期の免疫に重要な役割を果たしますが、その一方で扁桃自体に細菌などが感染することがあり、炎症を起こして赤く大きくなると発熱や痛みを伴います(扁桃炎)。扁桃肥大とは、炎症がない状態で口蓋扁桃が大きいことをいいます。

Q2 治療が必要ですか？

子どもでは成長に伴い口蓋扁桃とアデノイドは徐々に大きくなり、口蓋扁桃は6歳頃、アデノイドは4、5歳頃に最大となります。その後は自然に小さくなるので、この頃に症状がなければ治療の必要はありません。症状としては、睡眠中のいびき・無呼吸、寝起きが悪い、日中の眠気、多動、口呼吸、肉の塊などが飲み込みづらく食事に時間がかかる、などがあります。このように呼吸や食事に支障が出てい

る場合、口蓋扁桃とアデノイドを手術で摘出すると症状が著明に改善します。ただし、いびき症状は扁桃の一時的な炎症や鼻炎による鼻づまり、肥満などから悪くなることもありますので、症状がある場合はまずお近くの耳鼻咽喉科にご相談ください。

Q3 扁桃が大きいと 扁桃炎になりやすいのですか？

扁桃が大きいと必ずしも炎症を起こしやすいわけではありませんが、口蓋扁桃が繰り返し炎症を起こすことで扁桃肥大につながることはあります。扁桃炎の予防には、睡眠、栄養、加湿などの生活上の注意や、手洗い、うがいなどの感染予防が大切です。口呼吸による口腔内乾燥が影響することもあり、原因となる副鼻腔炎やアレルギー性鼻炎があれば治療が必要です。それでも年4回以上扁桃炎を繰り返す場合には、いびきなどの症状の有無に関わらず手術を検討することがあります。

